

**令和4年度 フォレスト
児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)**

公表:令和 5 年 3 月 3 日

事業所名 フォレスト

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○		ほぼ全日、基準人数プラス1人の職員を配置している。常勤職員に、保育士・社会福祉士・精神保健福祉士を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		死角無く見守れる環境配置をしている。活動に合わせて机等の配置を変更している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃と消毒を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			明確に「PDCAサイクル」としての話合いは行っていないが、職員間で日々の出来事を常に情報共有し、改善が必要なことについて都度都度話し合っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の方とは日頃よりオンラインシステム・チャットアプリ・メール・電話等で必要なやり取りを行っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			課題点があれば随時改善の為の検討や改善の実施を行っている。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現状、第三者評価は実施していない。コスト的な面も考慮し、今後検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		大阪市が行っている研修や、その他オンライン研修・事業所内研修を適宜行い情報共有している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		利用前に詳細なアセスメントを取り、ご本人と保護者の方に確認を得て計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		大阪府・市から出ているアセスメントシートをベースに、事業所に合った内容に適宜変更しながら使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		利用前に詳細なアセスメントを取り、ご本人と保護者の方に確認を得て計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員間で日頃からご利用者様の情報共有を行い、計画に沿った支援を行えるよう心掛けている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っているC17	○		職員間で日頃からご利用者様の状況に合わせた活動について検討・立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		同上 また、繰り返し同じ活動・訓練が必要なご利用者様に関しては、敢えて固定する場合もある。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		ご利用者様の課題に合わせて活動を組み合わせている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		設問の通り行っているが、その場その場で状況が変わることもあるのでそれぞれの職員が臨機応変に対応している。	臨機応変な対応がしきれていない場合もあるので、それについてはその後すぐに話し合い、改善を目指している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		設問の通り、行っている。その場にはいない職員への共有については、日誌等の記録を残したり別日に口頭で伝える等で対応している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		内容の全てを書き切れていなかったり、細かいニュアンスが伝わりにくような時もあるので、必要・重要な情報については記録プラス口頭で伝えるようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		設問の通り、行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		設問の通り行っており、職員間で情報共有している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		現状、16歳以上の方のご利用者様のみである為、学校や相談支援事業所等とのみ情報共有を行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		該当児童が不在。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		該当児童が不在。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		現状、16歳以上の方のご利用者様のみである為、学校や相談支援事業所等とのみ情報共有を行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		現状、16歳以上の方のご利用者様のみである為、学校や相談支援事業所等とのみ情報共有を行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			大阪市発達障がい者支援センターが主催している研修を受けに行くことはあるが、助言を受けたことは無い。必要なケースが発生した時に対応を検討する。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		現状、16歳以上の方のご利用者様のみである為、また、事業所が「就労準備」に重きを置いた活動を行っている為、行っていない。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		子ども部会に参加している。	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		オンラインシステム・チャットアプリ・メール・電話等を利用し、日頃から連絡を取り合っている。	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		「ペアレントトレーニング」として明確に行っていないが、都度都度必要に応じた連絡や面談等の対応を行うようにしている。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		ご利用開始前に行っている。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ご利用開始前に行っている。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○		定期的には行っていないが、日頃から連絡を取り合い、都度都度必要に応じた対応を行っている。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会の開催は現時点では予定していないが、要望に応じて検討をする。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		状況に合わせて、オンラインシステム・チャットアプリ・メール・電話等で連絡を取り合い、面談等の対応を行っている。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		「会報」と明示できるものは発行していないが、活動概要・今後の予定等はオンラインシステム・チャットアプリ・メール等で告知している。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		書類の管理を鍵付きの書庫で行い、ご利用者様の話を事業所外ではしない・必要な場合にはイニシャルで話すよう心掛けている。	
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ご利用者様・その保護者の方の状況に合わせた対応を取るよう心掛けている。	
40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		ご利用者様方のお住まいが一定ではない為と、大勢を招待出来る敷地規模の事業所ではないため、現状行っていない。地域で行われている行事が何かあれば、コロナ禍の状況も踏まえながら今後は参加を検討したい。	
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		事業所に設置されており職員に周知は行っているが、保護者の方への周知は近日実施予定である。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			事業所在中のビル全体での避難訓練は、職員が行っている。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		アセスメント時に保護者の方に確認をしている。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		該当児童が不在。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		職員間で情報共有を行っている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年に1度、施設管理者が外部研修を受け、事業所内で全職員に研修会を開いている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		設問の通り、行っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。